

京都大学 瀬戸臨海実験所 振興会
水族館月報

No. 3

1952. 11月(12月1日)

行楽の好季節も11月の前半まで、後半は急に客足が少なくなった。11日は文化の日であり且、全国観覧教育強調週間中であつたので9時から10時無料解放し、観覧者には特に質問に応答と貼紙をしておいた。水槽の前に掲げてある説明札以上のことを聞く人もなく、また突降に大変混雑で、その様目心り餘裕ももてはかつたであらう。

下旬に於て大変な事が起つた。それは停電である。停電は毎年行事で驚き日(11月)今年も毎水曜日に8時-17時半の10時間半停電をすると言うのである。現在の海水タンクでは3時間~5時間かにもはつかから、いづれもはかばかして約5時間の断水となる。大型槽ほどにかくれば魚の圧力が高くなり水質、バントは悉くこの断水堪えが得ない。此を待たずして海中に移し、電気がくればまた水槽多すと、口で言うように行えぬものである。その途中で魚は傷み、中には魚は死んだり、行方不明になるもの(澤山)で、^か5てくる。実は11~12月にして鯨骨の組立を行ふべく準備し、また今まで手をつけていた鯨骨の損傷部が、夫々これ以上猶予出来ぬ状態に於て来たので大工水道屋ほどを入れて仕事と進めていた折柄、金の用意が全然ないの(あつた)か、他に方法もなすまら、ヤンマーディーゼルの馬力を据付ける事と決心する事と成つた。他方、関西配電、紀南配電局に岩城監事と共に、岩城監事の御口添えてエンジンの据付完了まで停電日に特に11時~13時

の送電していろいろ様にお願いで了解いたす、一応胸を撫で
下してはいいもの、実は若い問題の後に残っている事を覚えていてはいいこと
い

ともあらはあれ、エンジンの格付は一応27日に終了、試運転も好評
であった。あと数回調整して5日頃からは正式に使用出来る筈。鯨骨
は東京の科原製作所主人 羽原保隆氏が24日東所 昇建仕事にか
かって下さり、30日には背椎の結束を終り、その夜裡と74水族館陳列
室に埋め込む工事までが終っている。12月20日頃には完成予定。
日中に鯨骨の組上げたものとらや人と陳列している所は そんなにいい筈
である。これも自恰の名物の席の一端を汚すに足るものとなるであらう。

◎ 11月入場者数

水族館発売切符数				
大人	5953	} 計 11203	} 18,143	
小人	318			
団体	4883			
明光バス発売切符数				
大人	6891	} 計 6,940		
小人	49			
無料入場者	-----		2,380	
(文化の日 幼稚園、町観光課依頼 他)				

◎ 観覧券売上金 ----- 332,100.00

◎ 支 出

10月より繰越し ----- 30,589.00

10月分入場税 ----- 29,000 - 3,333(尚所出) = 16,667.00

災害時予備給金 ----- 13,922.00

差 引 0.

人件費	(給料, 休日勤務手当)	36,183,00
光熱費	(電力料, 木炭代)	6,120,00
消耗品	(切符印刷代, 油)	8,950,00
備品費	(エンジン代一部及CR据付代)	67,000,00
修理費	(海水タンク, 水櫃保温装置 —— 大工修理, 鯨骨組立費の一部)	90,057,50
材料費	(魚類及CR飼料)	14,740,00
通信運搬費	(ハガキ)	250,00
旅費	(岡山-白浜, 大阪-白浜)	750,00
積立金	(退職資金, ベースアップ資金, 賞与資金, 厚生資金)	13,900,00
雑費	(茶)	130,00
契約金	(秀所山熱帯植物園)	55,141,00
諸税公課	(建物及CR物件賃借料6511分)	25,150,00

計 318,371,50

秀所山に対する契約金は、12月に繰越 13,728,50
 $(332,100 - 1,250) \times \frac{1}{6}$ として算出された。

1,250.- は月光バス株式会社に対する切符印刷費の1/5月分です。

現在までに未掛か

顕微鏡写真撮影装置	19,000,00
ヤマーディーセルエンジン	100,000,00
鯨骨組立	82,000,00

計 201,000,00

約20万円と云う事にはりです。この中鯨骨組立は、12月中に竣工すれば3ヶ月と支拂える事変ですが、エンジン代は大阪に飛入りですから月報16.6の予算に照して、これと支拂うためには今後予算外の支出は絶対的かつ、かつ各費目について厳重に節約をする事が必要になります。

◎ 入場税

10月分は山崎尾委員に交渉していたが、その旨と決定された。

免税の件に就き目しては、機会ある毎に申入れてはいますが、以後聊か進展しておりません。

入場料が免税とすれば、この1年の中にエンジン代が出てくるのですかね。

① 11月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(11)	7	5	5
気温	$\frac{15-20.5}{1.8}$	$\frac{13.7-21.9}{16.8}$	$\frac{15-18}{17}$
水温	$\frac{20.5-21.5}{21.1}$	$\frac{19.5-21.5}{20.5}$	$\frac{20-21}{20.5}$

但し： { 気温は南水揚室
水温は北水揚室 } で10時に測定

② 11月の魚

この月に人気を得ているのは10月と同じくコバンサメとアオリイカである。コバンサメは3日に2匹、24日に1匹を加え、現在5匹が大小3匹のシロサメに随行している。シロサメが3匹に増す以前、1匹のシロサメはくつろぐ物作が思ひぬので、とうとうスギに2匹ばかりくついてはった。ところがスギの皮膚はとて鯨肌には及びぬつかぬ程に柔らかいので、大さ小のサメの怒りにつき、これらもとて15日に死にた。今では時々アイゴ・シオ目とコバンサメがくつろぐ事がある、況んや次第に減すことになっている。アオリイカの他にコウイカ(マイカ?)が8日と26日に計々2匹はいた。流燈に泳ぎ廻るアオリイカとすんぐりとした作で月面の下面と青く輝かせながら、星の光と下方に曲げてタニマリと底層に

止っているユウイカとの対照も面白い。後者はまだ餌に近づかない
ツバメウオは次第に快方に向って行く。

ツノダシも生残つてゐるものはまだ元気です。

イトヒキアジも生残つたのは1匹か、14~15日頃よりやつと食餌につい
た。大樽水槽に入れてから1ヶ月目である。

11月に入つてイセエビが解禁となり、7~11日にかけて相当
これを購入した。これに混つて、ゴシキエビ、ニキエビが1匹づ
つ手に入つた。

No. 2 でヒメヤマノカミ? と記したものは薄厚博士の同意を
と願つた結果 セトミノカサゴ Brachirus Jordanii
(REGAN) である事が判つた。また比較的稀とされているハナ
ミノカサゴ Pterois volitans (L.) が大小の匹も水槽に
は入っているのは珍しい事であらう。

10月22日 左海君が採つて来た小魚ハハリセンボン(10匹)は
1物も食べずにいたが、この月末に死絶えてしまつた。何れ食べ
始めては、1ヶ月は大文更らう。

⑤ 魚病

水槽の魚には種々の病気があつたらう。その病名の診断がつかぬ
大抵の場合、と云つて放つて置く事も出来ない。そこで日本油脂
の徳岡さん(旧職員)に御相談してある試みをやつてみる事と
した。白臭病(勝手な名; 体に白斑が生じ特に眼は白濁して

くる。ひどくなるや強い臭でも殆ど死んでしまう。

① ウミスズメ 軽症のものに匹に2/10以来Pentachlorophenol-
Na 塩 $\frac{1}{1000}$ 液と等で塗布を続けている。処置時間3分位。継続
10日で結果は良いと思われる。

② ツバメウオ / 交 殆ど良く成っていたのか24日再び多くの
小白斑を生じた。そこで25日以來ウミスズメと同じ処置を1日
3日目で皮膚は殆ど美しくなってきた。

今後(種々)を試みた結果を良く悪くも書いてみるつもり。徳岡さん
には試薬や種の少教手に対して心算の事(を申上げます。

③ 11月の悪疫

2日小水槽のフックと矢矧の間にはさまれて、スジタルミ、ヨコガミ
等ノク匹2ノ交に殺されてしまった。

支出の修理費の大工修理とあるのは、このフックと右側の壁から隠す
ための工作を主としている。また下駄で亀の頭を政らうとして水槽の縁
を1たいた叩き、下駄を割った馬鹿者(いる)も、もしこれかまけては亀
の頭に当たってはいらと思うとソラとする。

タバコの吸殻と水槽に突込む人がある。タカハトかイスズミとかの
磯巻かやって来てつづいている。今迄にそれだけで死んだと思われるも
のは多いが、これも困ったものだ。

入場料と規定の割引以下にしてくれと注文のまだ時ある。その仕事が終わるのは田や道路の奪取として貯められた金ではどうも山奥から下つて来た茶壺達には決まらぬ。リクセーションで結構、またその人達と相手の金儲けも結構だが、更によくよく考えて見たいのだ。

時宗